

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「社会保障と税金」

武蔵村山市立第五中学校 3年 垂水 大地

昨年の冬、僕の祖父が僕の目の前で突然倒れた。僕は動揺した。「おばあちゃん、おばあちゃん。」夢中で庭にいたであろう祖母を呼んだ。初めて押す119番に手が震えた。

病院に搬送され緊急手術を行った祖父は、その日のうちに心臓にペースメーカーを入れる事になった。その後も約2ヶ月間程、入院し自宅に帰ってこれたのは桜が咲く頃だったのを記憶している。

家に帰ってきたのは嬉しかったが、それからの生活は一変した。倒れる前の祖父は二階に行く事なんて簡単だったのに、僅かな段差も躓いてしまう様になったため、家の中をバリアフリーにリフォームする必要がある。市に申請をして補助金を貰う事が出来た。また、リハビリを重ね、デイサービスに通う事になった。障害者手帳を発行してもらい非課税になった。祖母は色々助かると言っていた。

倒れた祖父を病院まで搬送してくれた救急車は、税金が使われている。その他にも、税金が何に使われているのかを調べた。病院に行った時の医療費、リフォームの際に貰った補助金、デイサービスにも税金が使われている事が分かった。今回、この様に国や市からのサポートが無ければ、祖母の負担はどれ程だったのか計り知る事が出来ない。

僕はこの事を知るまで税金の事をよく理解をせずに、母に、

「お母さんが頑張って働いて給料を貰っているのに税金って何故こんなに引かれるの？」

また知り合いのコンビニの店員さんにも、

「子供はお小遣いが少ないから消費税は免除してくれれば良いのにね。」

こんな事を話していた。

僕が母や店長さんに話した事が現実だとすると祖父を搬送してくれた救急車、入院費、リフォームの費用、デイサービスの支払い額は高額になっていたはずだ。

税金は、もっと身近な物にも使われている。僕達の使っている教科書や小中学校費にも使われている。図書館もだ。

必要不可欠で、いざという時に使われたり、困っている人の為に使われたり、僕達の生活を豊かにしてくれる税金。僕も今は消費税しか払ってないが社会人になったら税金を納めて社会に貢献したい。